

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類赤かび病の発生状況（技術情報第2号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

麦類赤かび病は平年より広い範囲で発生しており、小麦ではほ場間差が大きい。
発生ほ場では適期に収穫し、収穫物のかび毒対策を徹底する。

記

1 麦類赤かび病の発生状況の調査概要（別紙）

4月30日及び5月7日に、県内の小麦26ほ場、大麦12ほ場で各100穂を調査（発病程度別）した。

- （1）小麦では、発病穂率3.8%（平年1.6%）、発病度0.6（平年0.3）、発生ほ場率69.2%（平年44.2%）と、全ての項目で平年よりやや高かった。
- （2）大麦では、発病穂率0.8%（平年1.0%）、発病度0.1（平年0.2）、発生ほ場率41.7%（平年29.0%）と、発病穂率と発病度は平年並、発生ほ場率は平年よりやや高かった。

2 今後の管理上の留意点

赤かび病について、発病程度は軽いが、平年より広い範囲で発生がみられる。倒伏したほ場ではかび毒の汚染が助長されるため、多発ほ場や降雨等で倒伏したほ場では、下記のかび毒対策を徹底する。

- （1）刈り遅れると、赤かび病菌が産生するかび毒（DON）の含有濃度が高くなる傾向があるため、適期に収穫する。
- （2）収穫時にほ場を確認し、赤かび病の発生ほ場で倒伏がみられた場合は、かび毒汚染の可能性が高くなるため、可能な限り他のほ場と分けて収穫する。
- （3）共同乾燥施設においては、荷受時に赤かび病被害粒のチェックを行い、被害粒がみられた場合は、必要に応じてその他の麦とは別に乾燥するなどの仕分けを行う。
- （4）赤かび病被害粒は粒厚が薄く、また比重が軽い傾向があるため、粒厚選別や比重選別により被害粒除去に努める。

（参考）

- 1）麦類の病気的一种である赤かび病は、フザリウムというかびが原因であり、かび毒であるデオキシニバレノール（Deoxynivalenol：DON）を作ります。
- 2）平成15年産麦（大麦を含む）からは、農産物検査規格のうち食用麦の赤かび病被害粒の混入率が、これまでの1.0%から0.0%に引き下げられました。また、食品衛生法に基づき、小麦についてデオキシニバレノール（DON）を1.0mg/kgを超えて含有するものであってはならない旨の成分規格が新たに設定され、令和4年4月1日から適用されました。

熊本県病害虫防除所
（熊本県農業研究センター生産環境研究所内）
担当：守田 TEL 096-248-6490

令和7年(2025年) 麦類赤かび病の調査結果

調査日: 令和7年4月30,5月7日

小 麦(生育ステージ:乳～黄熟期)

ほ場	地点名	発病穂率 (%)	発病程度別の穂数				発病度
			0(無)	①(軽)	②(中)	③(甚)	
1	熊本市1	0	100	0	0	0	0.0
2	" 2	0	100	0	0	0	0.0
3	" 3	0	100	0	0	0	0.0
4	" 4	4	96	4	0	0	0.7
5	玉名市1	3	97	3	0	0	0.5
6	" 2	2	98	2	0	0	0.3
7	" 3	4	96	4	0	0	0.7
8	" 4	4	96	4	0	0	0.7
9	山鹿市1	0	100	0	0	0	0.0
10	" 2	0	100	0	0	0	0.0
11	" 3	6	94	6	0	0	1.0
12	" 4	1	99	1	0	0	0.2
13	菊池市1	2	98	2	0	0	0.3
14	" 2	0	100	0	0	0	0.0
15	" 3	4	96	4	0	0	0.7
16	" 4	2	98	2	0	0	0.3
17	大津町1	0	100	0	0	0	0.0
18	" 2	0	100	0	0	0	0.0
19	御船町1	12	88	12	0	0	2.0
20	" 2	15	85	15	0	0	2.5
21	甲佐町1	18	82	18	0	0	3.0
22	" 2	11	89	11	0	0	1.8
23	嘉島町1	1	99	1	0	0	0.2
24	" 2	2	98	2	0	0	0.3
25	氷川町1	5	95	5	0	0	0.8
26	" 2	3	97	3	0	0	0.5
平均値		3.8	発生ほ場率 69.2%				0.6
平年値(過去10年)		1.6	" 44.2%				0.3

大 麦(生育ステージ:黄熟期)

ほ場	地点名	発病穂率 (%)	発病程度別の穂数				発病度
			0(無)	①(軽)	②(中)	③(甚)	
1	山鹿市1	3	97	3	0	0	0.5
2	" 2	3	97	3	0	0	0.5
3	菊池市1	0	100	0	0	0	0.0
4	" 2	1	99	1	0	0	0.2
5	" 3	0	100	0	0	0	0.0
6	" 4	0	100	0	0	0	0.0
7	大津町1	0	100	0	0	0	0.0
8	" 2	0	100	0	0	0	0.0
9	あさぎり町1	1	99	1	0	0	0.2
10	" 2	1	99	1	0	0	0.2
11	多良木町1	0	100	0	0	0	0.0
12	" 2	0	100	0	0	0	0.0
平均値		0.8	発生ほ場率 41.7%				0.1
平年値(過去10年)		1.0	" 29.0%				0.2

※1 1ほ場において100穂調査

※2 発病程度 0:発病無し ①:穂の1/3以下が発病 ②:穂の1/3～2/3が発病
③:穂の2/3以上が発病※3 発病度 $= [6 \times ③ + 3 \times ② + ①] / (6 \times \text{調査穂数}) \times 100$ ※4 平年値は、調査未実施の年及び多発年を除外した過去10年から算出
(小麦: H24～R5、大麦: H25～R6)

参考

過去の麦類赤かび病の調査結果

小 麦

調査年	発病穂率	発病度	発生圃場率(%)	備考
H17年	1.5	0.3	68.0	5/10・11調査
H18年	2.8	0.4	66.7	5/11調査
H19年	1.6	0.3	58.3	5/7・8調査
H20年	0.6	0.2	28.0	5/7・8調査
H21年	0.0	0.0	3.3	5/7・8調査
H22年	1.0	0.2	26.7	5/6・7調査
H23年	0.4	0.1	23.1	5/10・16調査
H24年	2.6	0.5	61.5	5/16・18調査
H25年	0.1	0.0	7.7	5/8・14調査
H26年	0.2	0.0	19.2	5/14・16調査
H28年	3.0	0.5	65.4	5/11・18調査
H30年	2.8	0.5	61.5	5/10・18調査
R1年	1.1	0.2	50.0	5/8・9調査
R2年	1.0	0.4	30.8	5/7・8・14調査
R3年	0.1	0.0	7.7	5/10・11調査
R4年	3.3	0.6	84.6	5/6・11・12調査
R5年	1.8	0.3	53.8	5/8調査
R6年	24.1	6.2	100.0	5/1調査
平年値(10年間)	1.6	0.3	44.2	H24～R5(H27,H29,R6は除外)
R7年	3.8	0.6	69.2	5/7調査

大 麦

調査年	発病穂率	発病度	発生圃場率(%)	備考
H17年	0.6	0.1	36.4	5/10・11調査
H18年	1.3	0.2	50.0	5/11調査
H19年	0.4	0.1	35.7	5/7・8調査
H20年	0.1	0.0	7.1	5/7・8調査
H21年	0.0	0.0	0.0	5/7・8調査
H22年	0.0	0.0	0.0	5/6・7調査
H23年	0.2	0.0	14.3	5/10・16調査
H24年	0.9	0.1	28.6	5/16・18調査
H25年	0.1	0.0	7.1	5/16・18調査
H26年	0.0	0.0	0.0	5/14・16調査
H28年	1.3	0.2	50.0	5/11・18調査
H30年	2.6	0.4	50.0	5/10・18調査
R1年	1.0	0.2	33.3	5/8・9調査
R2年	0.5	0.1	8.3	5/7・8調査
R3年	0.0	0.0	0.0	5/10・11調査
R4年	2.0	0.3	41.7	5/6・11・12調査
R5年	1.0	0.2	50.0	5/8・15調査
R6年	1.8	0.3	50.0	4/30,5/1調査
平年値(10年間)	1.0	0.2	29.0	H25～R6(H27,H29は除外)
R7年	0.8	0.1	41.7	4/30,5/7調査